

ラウンドアップ・レディー・アルファルファ J101 系統及びラウンドアップ・レディー・アルファルファ J163 系統に係る食品健康影響評価に関する審議結果についてのご意見・情報の募集結果について
(専門調査会回答)

1. 実施期間：平成17年2月24日～平成17年3月23日
2. 提出方法：インターネット、ファックス、郵送
3. 提出状況：1通
4. 主なご意見の概要及びそれに対する遺伝子組換え食品等専門調査会の回答

ご意見・情報の概要	専門調査会の回答
<p>食品全委員会は食に関わるリスク評価する機関であり、今回の除草剤抵抗作物をその観点でのみ評価する事に仕組みとして異論はない。しかし、人の健康は生活環境含めて影響を受ける物であり、食品として従来品と同等であるかどうかの議論で済まないのが遺伝子組み換え作物だと考える。</p> <p>ラウンドアップレディー大豆、トウモロコシで話題になった抵抗性遺伝子が他の植物に伝搬する現象や環境への影響はどの機関で評価されるのだろうか？生態系への影響はそこに生存する生物へ直接、間接的に関わってくると思われる。この101・163系統アルファルファの除草剤抵抗性遺伝子の断片が種子、花粉、植物残渣等から土壌細菌あるいは昆虫を媒介として他の植物に伝播しないのだろうか？風邪のウィルスが変異するように遺伝子が動く可能性はないのだろうか。遺伝子の伝播が引き起こすことによるリスクとは何なのか、素朴に疑問が生じる。遺伝子組み換え植物については、単に食の安全だけでなく、生態環境含めたりスク評価を横断的に出来る機関を設けて欲しい。</p>	<p>遺伝子組換え作物を食品として摂食する場合のヒトの健康影響評価(リスク評価)については、「実質的同等性の考え方」に基づいて行っていますが、この考え方は、組換え食品の安全性を評価するために、既存の食品を比較対象として用いることができるというものであり、コーデックス委員会等国際的にも認められているものです。</p> <p>食品安全委員会では、この考え方を踏まえて作成された「遺伝子組換え食品(種子植物)の安全性評価基準」等に基づいて、遺伝子組換え作物の食品としての安全性評価を行っております。</p> <p>遺伝子組換え作物の生物多様性への影響については、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」(カルタヘナ法)に基づき、農林水産省、環境省が審査しております。これら2件のアルファルファについても同法に基づく申請が行われ、ご懸念の事項も含め生物多様性への影響という観点から現在審査が行われているところです。</p> <p>このように、遺伝子組換え作物については、生物多様性の保全や食品安全性等の観点から、関係する機関において、必要に応じた連携をとりながら、審査を行っております。</p>